

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 21 年 4 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 21 年 1 月～3 月期の実績および平成 21 年 4 月～6 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	15 社	50.0%
水産業部会	30 社	15 社	50.0%
機械工業部会	30 社	10 社	33.3%
建設業部会	30 社	15 社	50.0%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	18 社	60.0%
合 計	150 社	73 件	48.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況は横ばい次期好転見込み－

1. 全体の動き(業況)

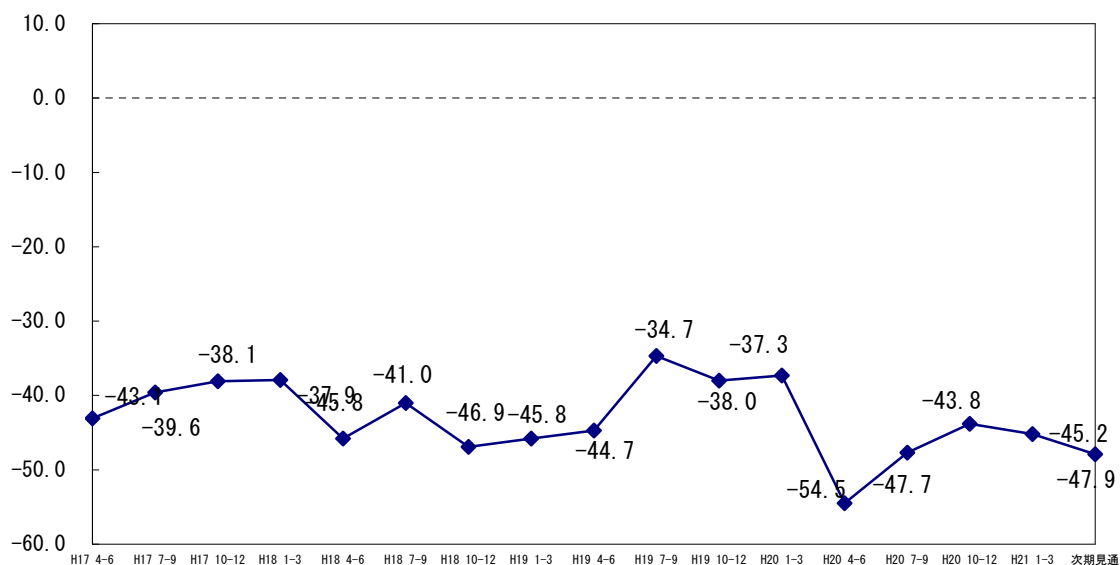
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成21年1月～3月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△45.2**と前回調査時の△43.8とほぼ横ばいの状況となりました。H16年度調査以来マイナス30%台からマイナス50%台を常に行ったり来たりし、本年度も一年を通して低迷した業況は改善されず、市内経済を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いています。

特に流氷観光シーズンに期待が集まった観光・サービス業部会からは全部会の中で最も厳しいとの声が多く寄せられ、特に今年度は**全業種から「原材料価格の高騰」や「需要停滞にともなう売上高の減少」による影響が経営を圧迫している**との声が多く、国の景気対策等、中小企業への今後の対策がさらに必要と思われまます。

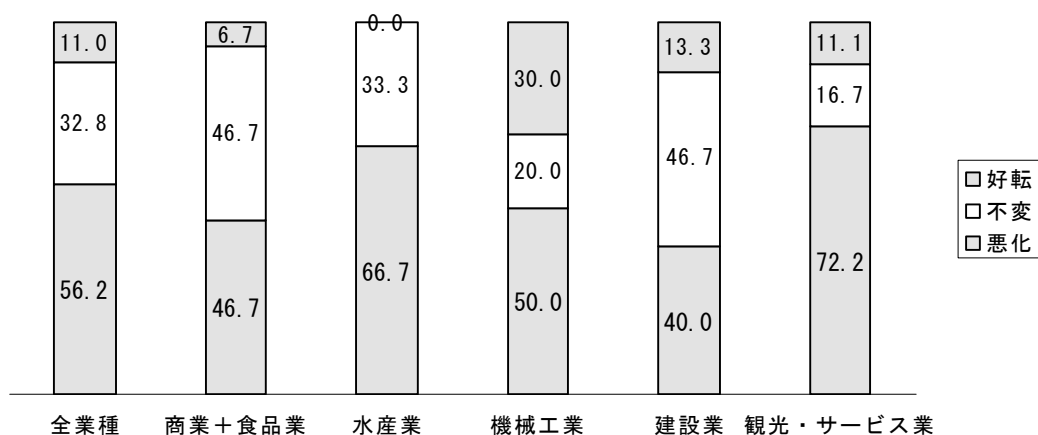
部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前期△73.3→今期△40.0]、水産業[前期△26.7→今期△66.7]、機械工業[前期△21.1→今期△20.0]、建設業[前期△37.5→今期△26.7]、観光・サービス・諸業[前期△66.7→今期△61.1]となりました。業況は依然マイナス水準で推移しているものの、**商業・食品業と建設業**においてはマイナスながらも**やや改善する動き**がみられ、今後の期待されます。反面、冬期休業状態であった水産業部会については全体的には業況が悪くなっている状態であり、今後の漁業再開後の水揚げ状況、卸値相場の行方など注目していきたい。

来期(平成21年4月～6月)については、今期と比べて**業況判断DIが2.7ポイント悪化**するとの見通しである。

業 況 推 移 (全業種平均D・I)



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、**需要の停滞**が全ての業種で訴えられており、売上の減少が確実に進んでいる状態が見られ、この先の事業について見通しが立たないなど市内経済回復には悲観的な状態で、もう何もできない期待できないという厳しい意見も目立ってきています。その中でも今まで問題点として常時取り上げられていた「材料単価の上昇」については全体的に高止まったためか訴える声が少なくなってきたようです。諸経費の削減や設備投資の見送りになどによる対応に苦慮しているとの声も多く寄せられています。

■部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△40.0（前期△73.3、来期見通し△46.7）〕

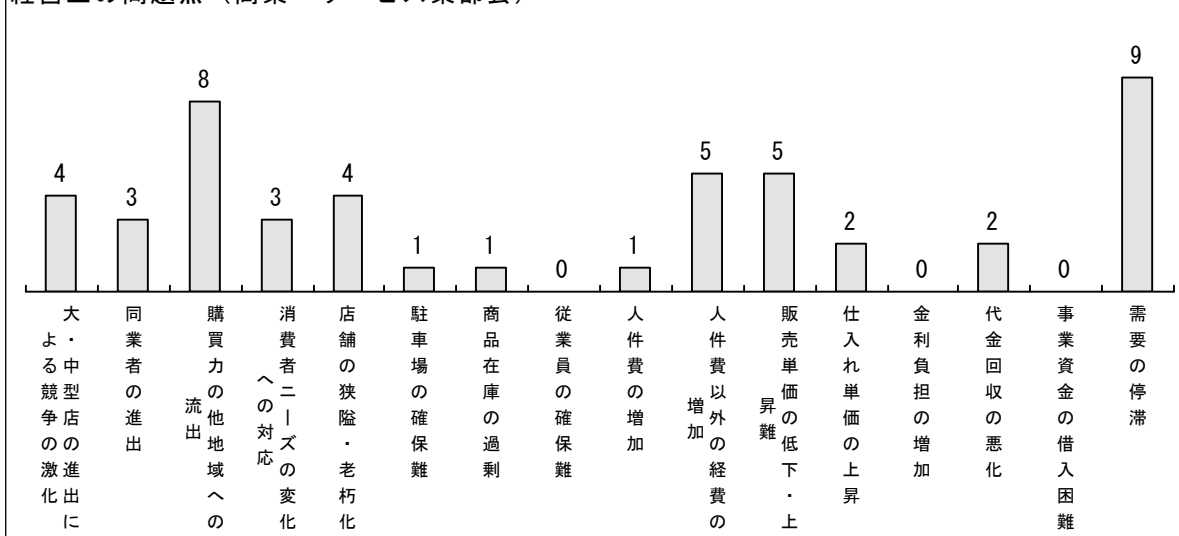
業況DI値（前年同期比）は、前期よりも数字面では改善しておりますが、厳しい状況で推移していることには変わりありません。景気の後退による買い控える状態が見られたほか、人口の減少や長引く不況による購買力の低下を訴える声が多く寄せられています。来期見通しも厳しいですが、定額給付金の購買効果や夏物商戦に向けて期待を持ちたいところです。

経営上の問題点としては「需要の停滞」に加え、「購買力の他地域への流出」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・中心商店街の空洞化による専門店の減少（客足の減少）（小売）
- ・メーカーの再編成による巨大化（物流センター）等で小回りが充分でない。その為、欲しい商材の仕入が不十分となる業態の変化が著しい。コンビニ、ホームセンター、大型量販店へ商材がシフトしている為、専門店としての機能が低下している。（小売）
- ・ネット販売に対応した。商品差別化が出来ていない。

経営上の問題点（商業・サービス業部会）

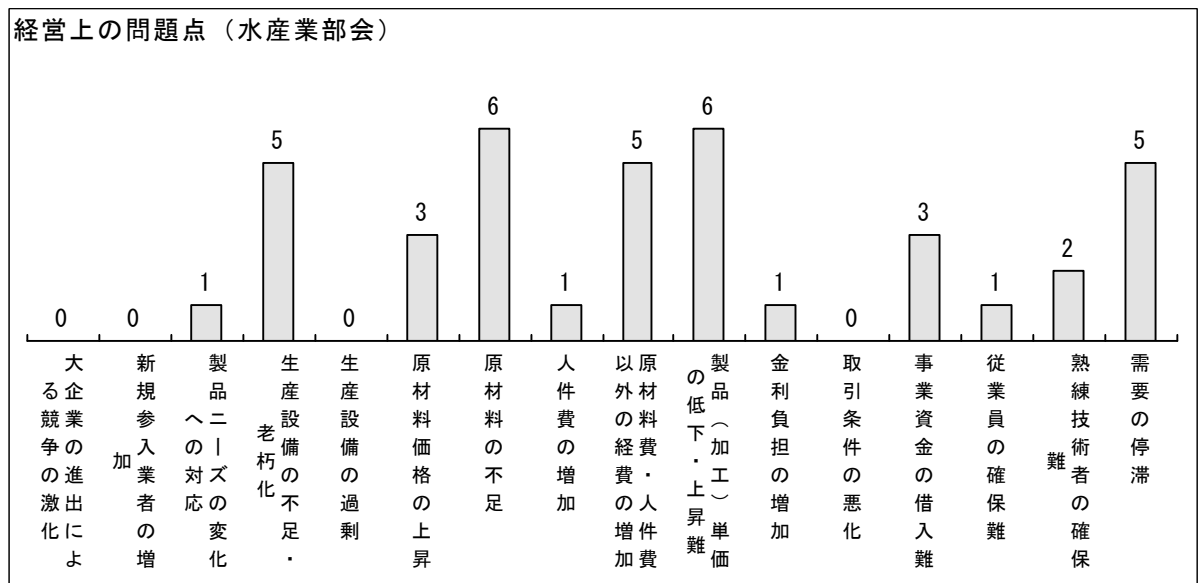


【水産業部会】 [業況判断 DI 値（前年同期比）△66.7（前期△26.7、来期見通し△40.0）]

流水が去った浜の状況は、依然厳しい状況で推移している。前回調査まで継続して原材料の価格上昇を訴える声がとても多かったのですが、ここに来て上昇も高止まりしたためか、原材料価格上昇を訴える声が極端に少なくなってきました。また今春より「紋別漁業協同組合」紋別地方卸売市場が完成し、今後の夏に向けて漁が本格化していくので DI 値は期待がもて、昨年度もロシアからのカニの輸入額が過去最高という話題が報道されていたこともあり、来期以降もカニの輸入が安定することを期待しているところです。経営上の問題点としては「製品（加工）単価の低下・上昇難」、「原材料の不足」、「原材料費・人件費以外の経費の上昇」「生産設備の不足・老朽化」「需要の停滞」などがあげられています。

《業界の問題点等》

- ・固定経費の増加を期末で吸収出来るか不安である。（水産加工）
- ・原料確保の見通しが不透明。（水産加工）



【機械・工業部会】 [業況判断 DI 値（前年同期比）△20.0（前期△21.1、来期見通し△30.0）]

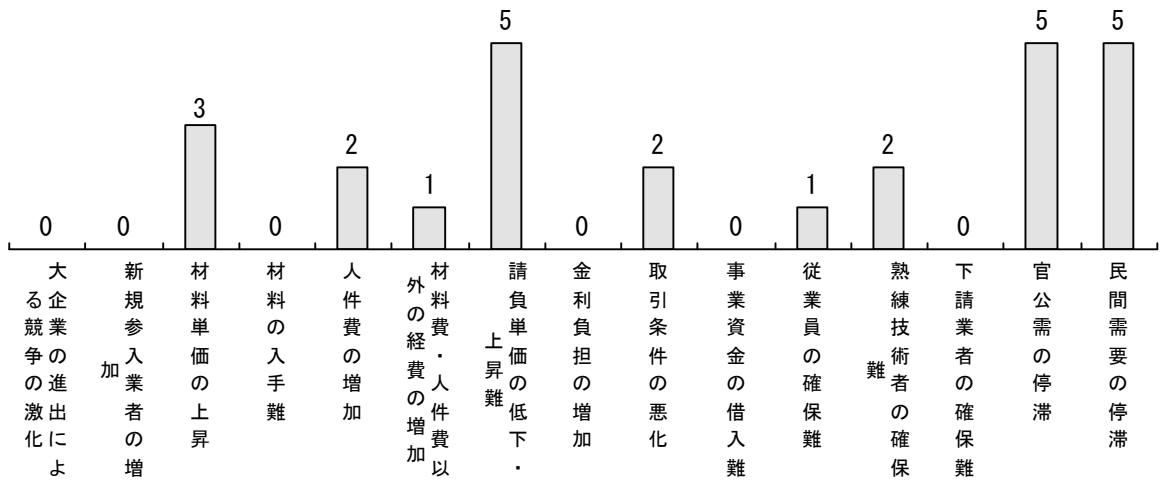
前期の調査段階の時に来期見通し△78.9 と悪化予想した業況判断 DI 値ですが、今期はそれほど大きな変動もなくほぼ横ばいに推移しました。来期見通しは若干悪化との見方ですが、国内経済状況を見ても新車売上台数不振（軽自動車・ハイブリッド除く）等報道されていますが、今後の国の景気対策の目玉である新車減税エコカー減税などで DI 値が改善されることを期待しています。

経営上の問題点としては、「官公需の停滞」、「民間需要の停滞」「請負単価の低下・上昇難」などが寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・トラック（15年使用）の入替について（機械製造）
- ・①酪農家の製品価格（乳価・飼料・牛個体）等が変化が激しく、不安定である。特に上昇は鈍く、下降は早い。その為、前記市場の関連する会社は、経営の不安定が続き、少ない市場で競争が激しく所得の確保が厳しい。（農器具販売）

経営上の問題点（機械・工業部会）



【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△26.7（前期△37.5、来期見通し△46.7）〕

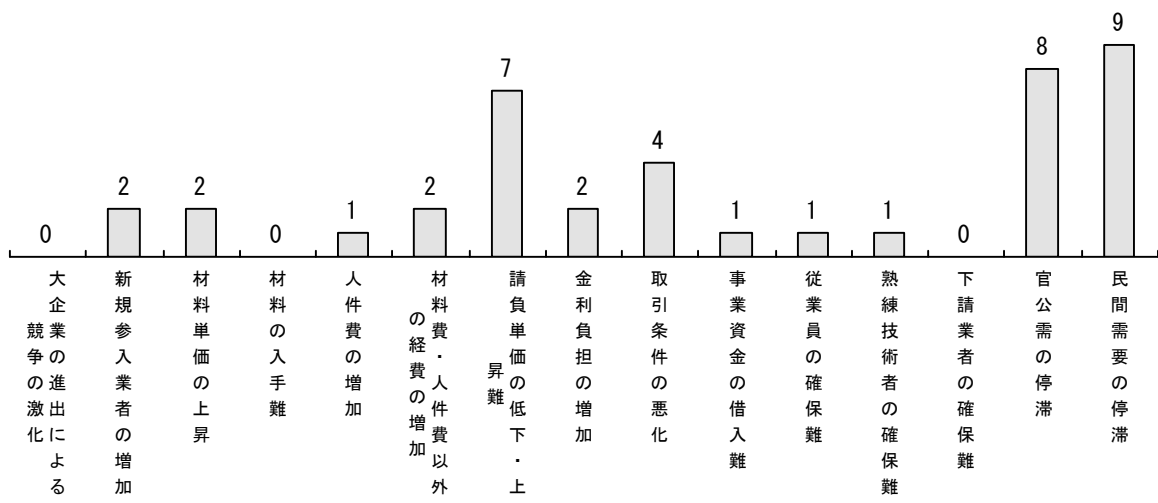
業況判断DI値は依然として厳しい状況が続いており、全体的な工事量が少ない中において価格競争も激しくなっており中小企業も苦戦しています。特に市内建設大手2社が同時倒産し関連企業、関連下請企業に影響が出始めてきているところです。建設業界も今まで問題点として取り上げられていた「材料単価の上昇」については高止まったためか訴える声が少なくなってきました。夏シーズンに突入し、工事量の増加や土木建築工事が増えることを期待したいところですが、大きな公共工事も見あたらず先行きは暗い状況です。今後の景気対策補正予算で少しでも建設業界に好材料が出るような施策を期待し業況判断DI値が改善されることを望んでいるところです。

経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「官公需の停滞」「請負単価の低下・上昇難」などがあげられています。

《業界の問題点等》

- ・全体的に元請業者の受注額が低い。同業の単価を全体で徐々に下げている。（建設）
- ・仕事は欲しいが、取引先の信用不安（風評も含めて）の為、下請け受注に踏み込めないケースが増えてきた。（建設）

経営上の問題点（建設業部会）



【観光・サービス部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△61.1（前期△66.7、来期見通し△66.7）〕

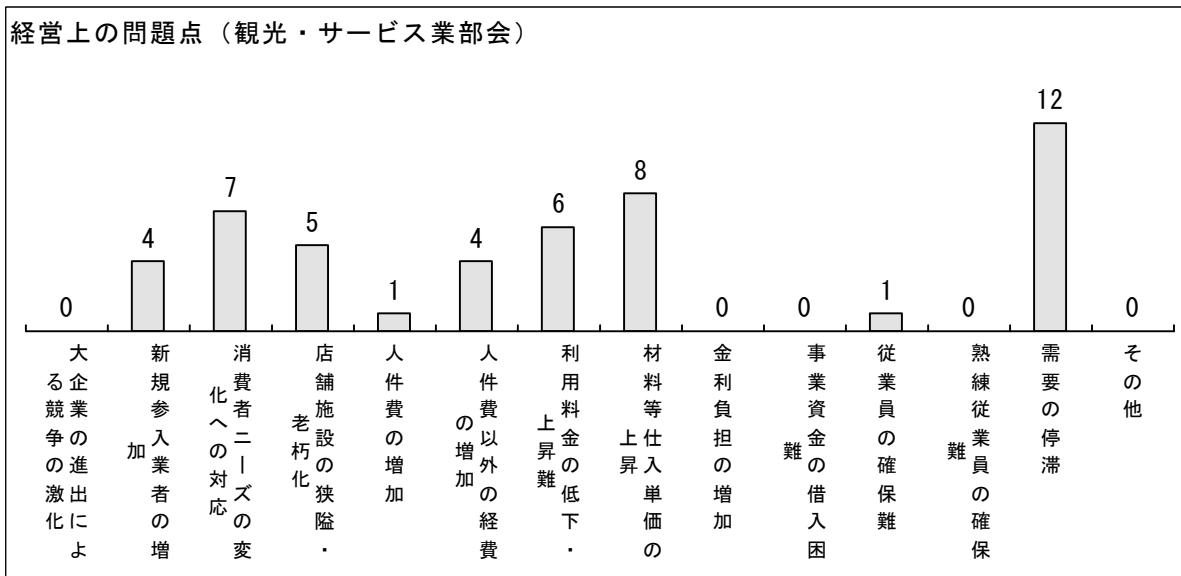
業況判断DI値（前年同期比）は依然として横ばいで厳しい状況が続いております。全業種の景気状況に左右される業種だけあって、サラリーマンの給与所得の減少や物価高による買い控

えの影響で売上が激減し、特に飲食関係では市内事業所が経費を抑えるために接待交際費の節減などの影響を受け、さらに経営内容を苦しい状況に追い詰められ、悲鳴を上げているのが現状です。また保険業界などでも保険の解約、新規契約が取れないなど苦しい状況も見受けられます。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」「材料等仕入れ単価の上昇」「人件費以外の経費の上昇」「需要の停滞」などがあげられています。

《業界の問題点等》

- ・もう、何も期待できない。(飲食店)
- ・需要の停滞が著しい。(クリーニング業)
- ・もう何もありません。(飲食店)
- ・①消費者の客離れと競合店の増加 ②年間利用回数の低迷(理容)
- ・経済不況による売上の減少が顕著に表れている。(サービス業)



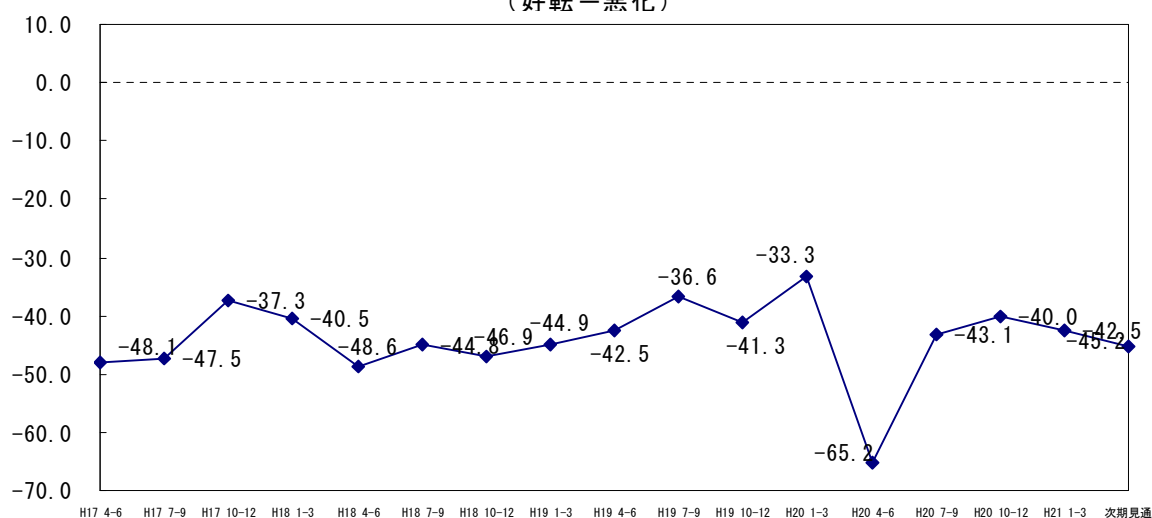
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

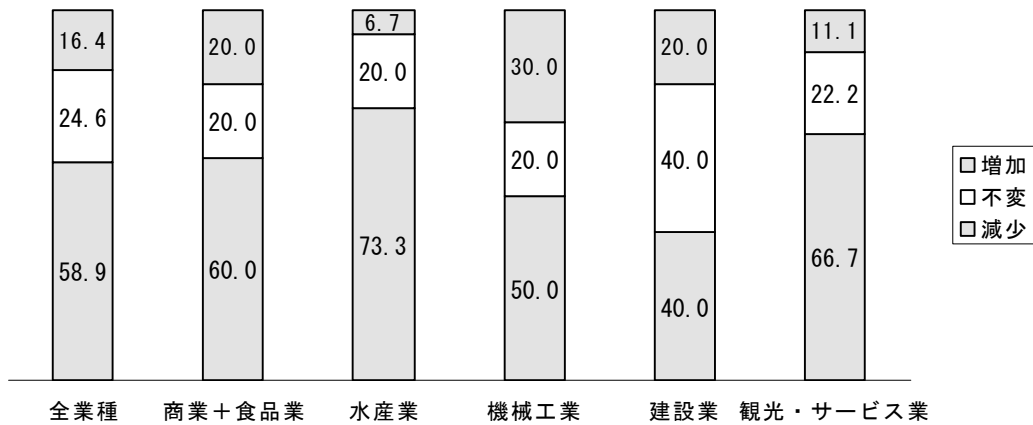
【前年同期比】(平成20年1月～3月期の水準と比較した今期の売上高)

売上状況 (全業種平均D・I)

(好転—悪化)



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値 $\Delta 42.5$ 〔前回調査時（平成20年10～12月期 $\Delta 40.0$ ）より2.5ポイント悪化〕。

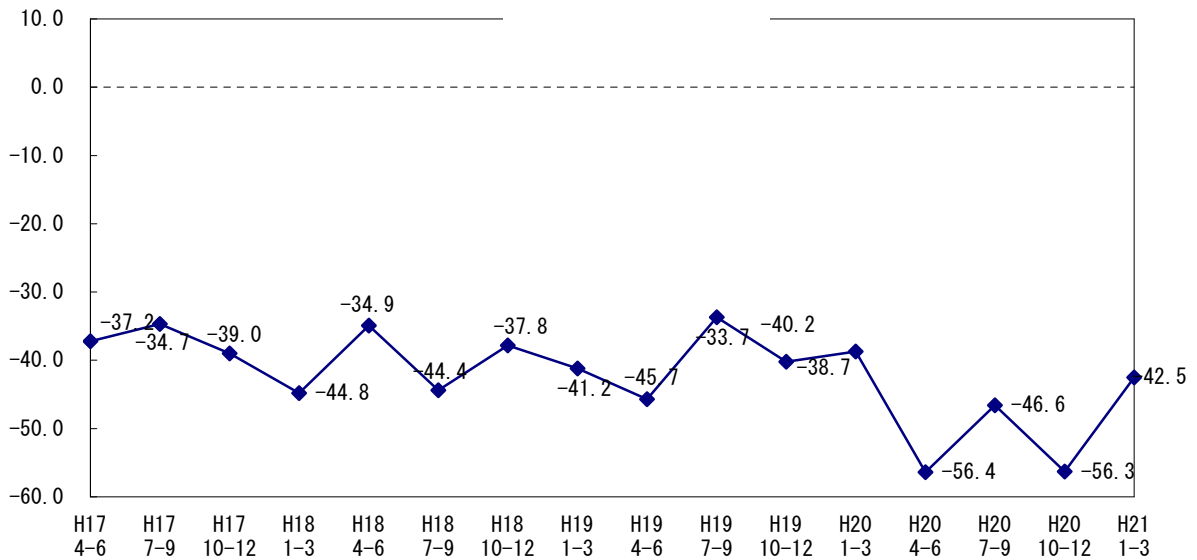
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 60.0 \rightarrow \Delta 40.0$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 26.7 \rightarrow \Delta 66.7$ 〕
 機械工業〔前回 $\Delta 15.8 \rightarrow \Delta 20.0$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 37.5 \rightarrow \Delta 20.0$ 〕
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 66.7 \rightarrow \Delta 55.6$ 〕

(2) 今期の採算

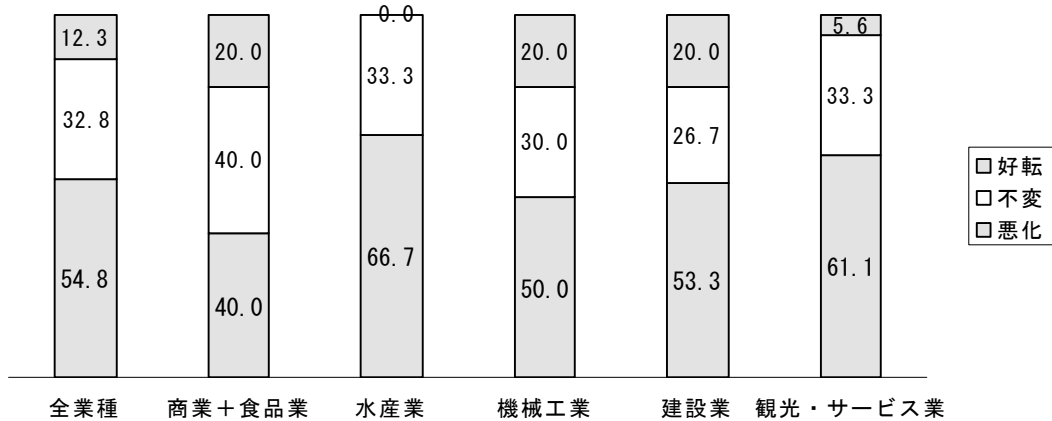
【前年同期比】（平成20年1月～3月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均D・I）

（好転－悪化）



今期の採算（前年同期比）

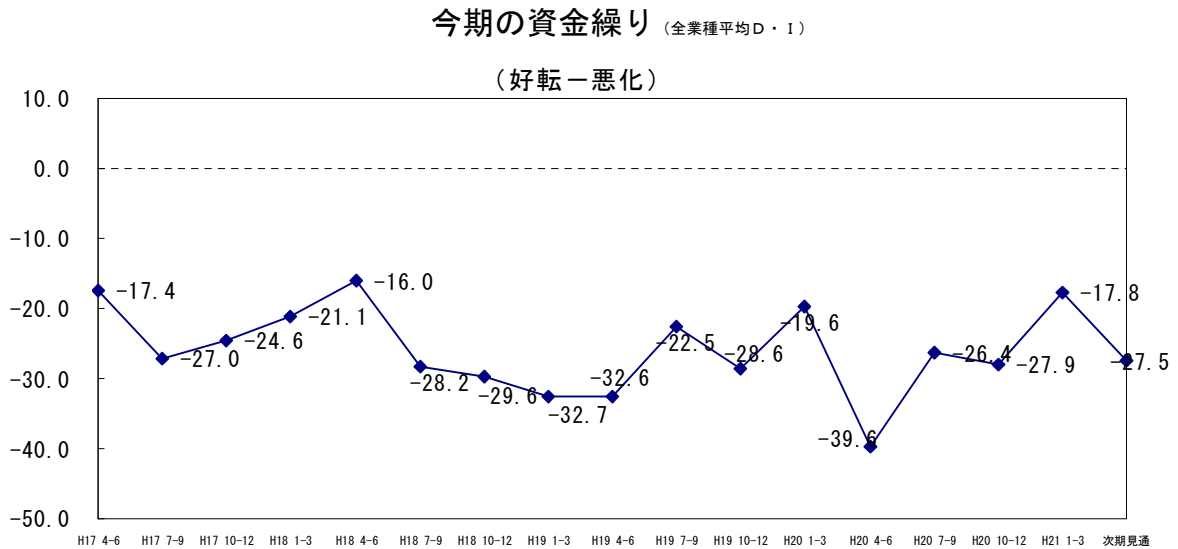


全業種平均でDI値 $\Delta 42.5$ 〔前回調査時（平成20年10～12月期 $\Delta 56.3$ ）より13.8ポイント改善〕

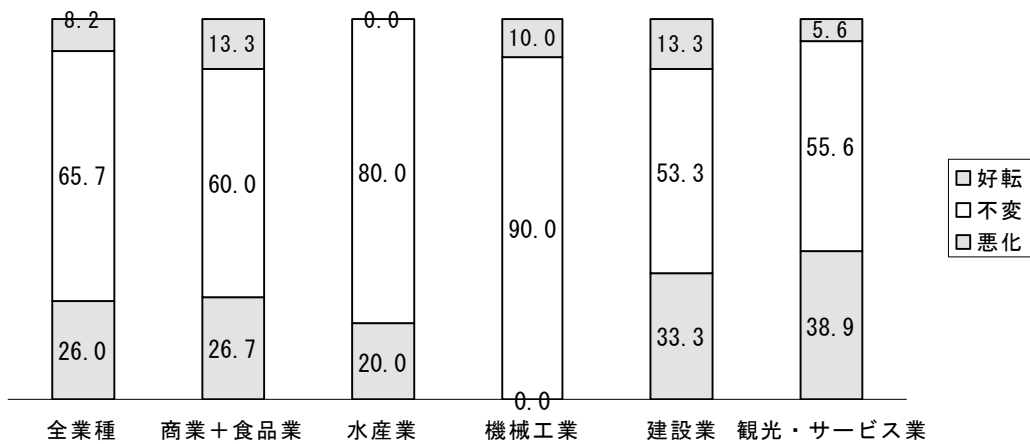
【部会別DI値】 商業・食品業〔前回 $\Delta 46.7 \rightarrow \Delta 20.0$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 46.7 \rightarrow \Delta 66.7$ 〕
 機械工業〔前回 $\Delta 52.6 \rightarrow \Delta 30.0$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 62.5 \rightarrow \Delta 33.3$ 〕
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 73.3 \rightarrow \Delta 55.6$ 〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成20年1月～3月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）



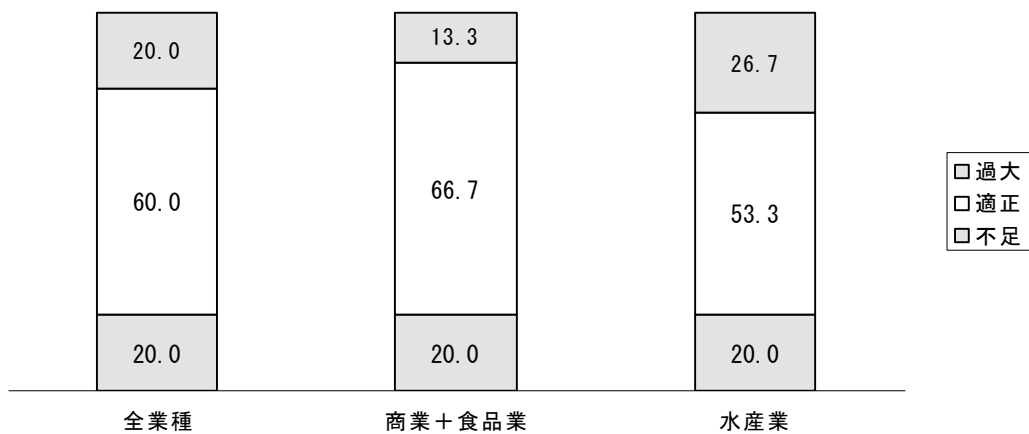
全業種平均でDI値 $\Delta 17.8$ 〔前回調査時（平成20年10～12月期 $\Delta 27.9$ ）より10.1ポイント改善〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前回 $\Delta 13.3 \rightarrow \Delta 13.3$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 20.0 \rightarrow \Delta 20.0$ 〕
 機械工業〔前回 $\Delta 31.6 \rightarrow 10.0$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 25.0 \rightarrow \Delta 20.0$ 〕
 観光・サービス業〔前回 $\Delta 50.0 \rightarrow \Delta 33.3$ 〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成20年1月～3月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）

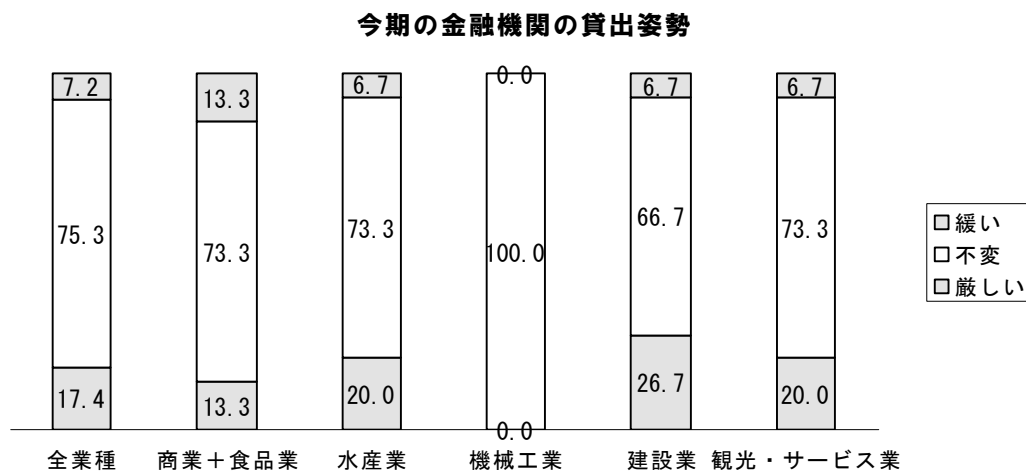


全業種平均でDI値 0.0 〔前回調査時（平成20年10～12月期 $+6.9$ ）より6.9ポイント在庫減少〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前回 $0.0 \rightarrow \Delta 6.7$ 〕、水産業〔前回 $14.3 \rightarrow 6.7$ 〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

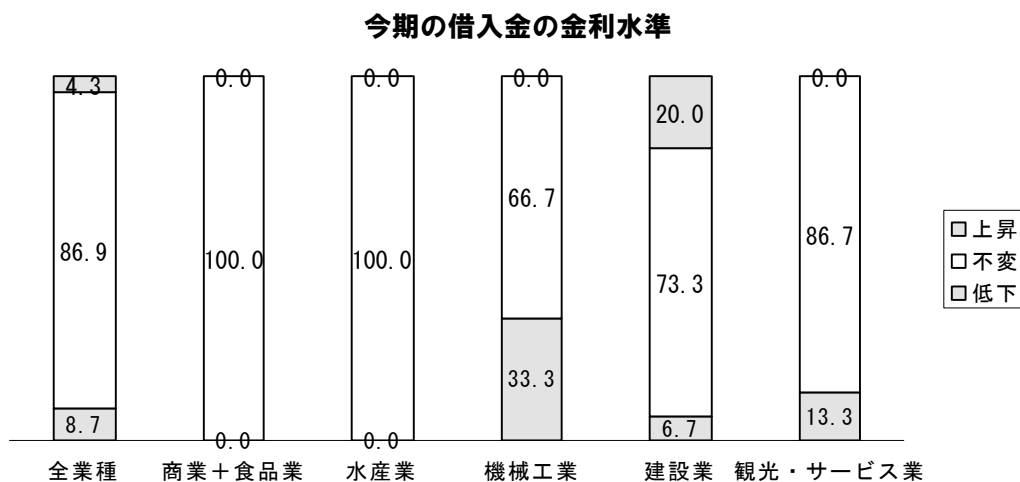
【前年同期比】（平成20年1月～3月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均で△10.2ポイント。商業食品業 0.0 水産業△13.3 機械工業 20.0 建設業△20.0 観光サービス業△13.3

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成20年1月～3月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

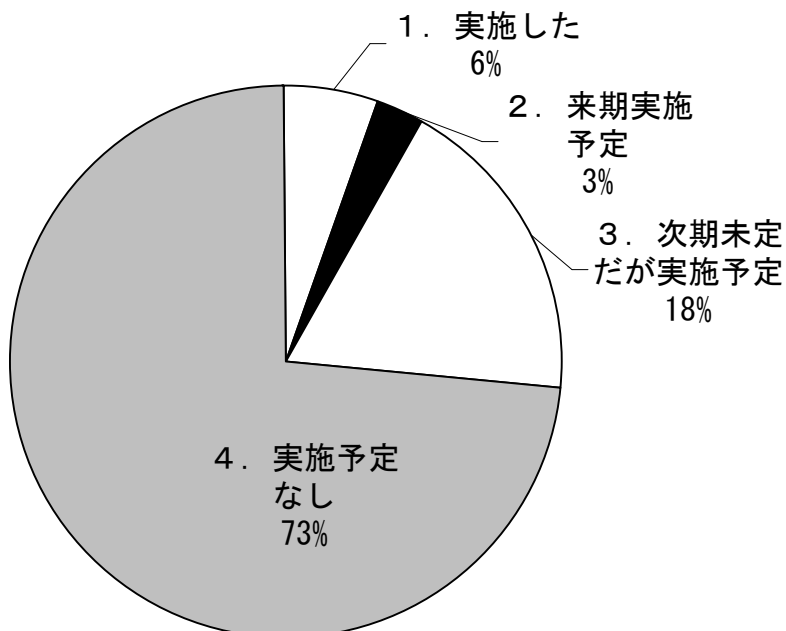


全業種平均で△4.4。商業食品業 0.0 水産業 0.0 機械工業△33.3 建設業 13.3 観光サービス業△13.3。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

設備投資の実施状況

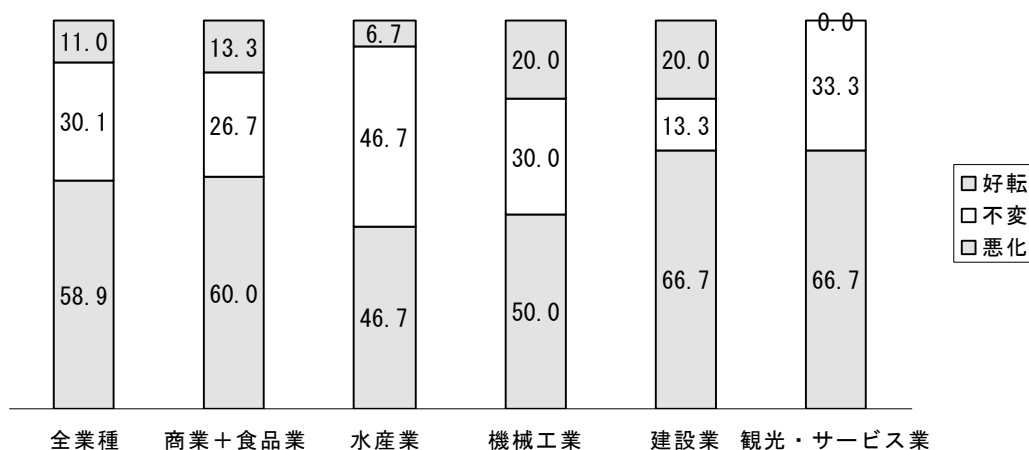


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 21 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

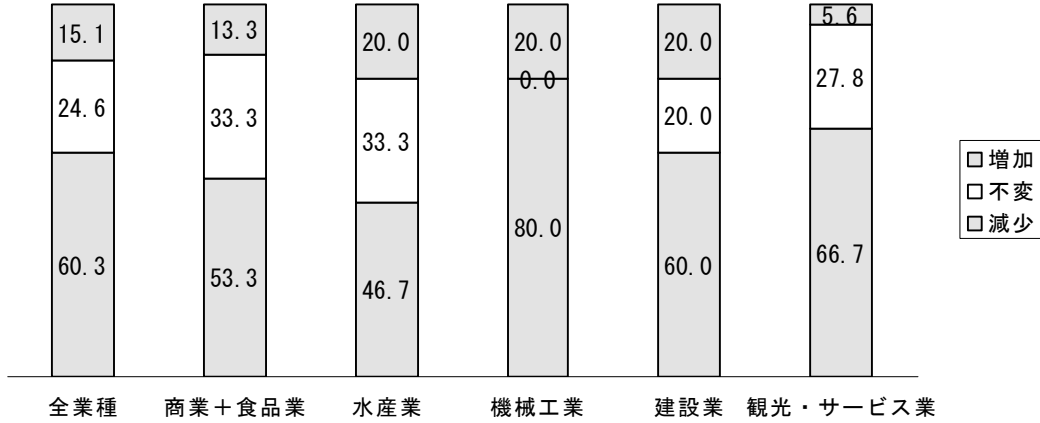


全業種平均 DI 値 $\Delta 47.9$ [今期の業況（前年同期比 $\Delta 45.2$ ）より 2.7 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 21 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

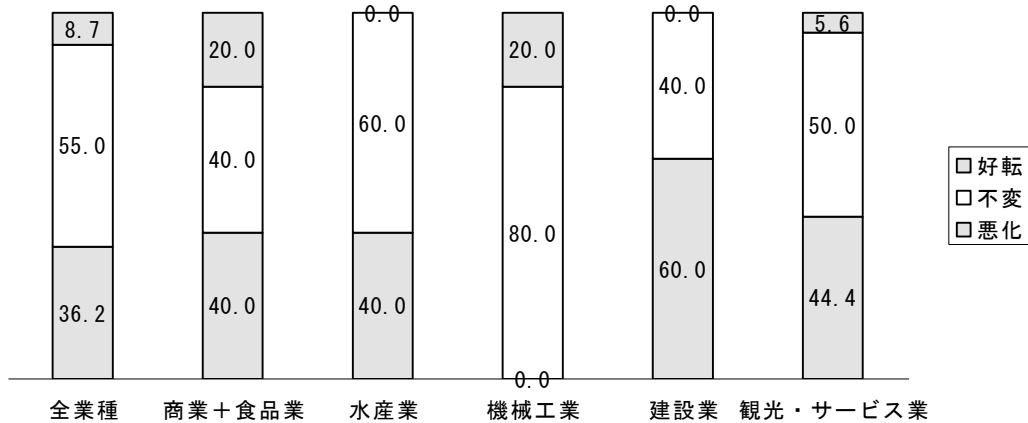


全業種平均 DI 値 $\Delta 45.2$ [今期の売上高・生産高（前年同期比 $\Delta 42.5$ ）より 2.7 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 21 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 $\Delta 27.5$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 17.8$ ）より 10.3 ポイント悪化の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	△45.2	△40.0	△66.7	△20.0	△26.7	△61.1
	来期見通し	△47.9	△46.7	△40.0	△30.0	△46.7	△66.7
売上 D・I	今期実績	△42.5	△40.0	△66.7	△20.0	△20.0	△55.6
	来期見通し	△45.2	△40.0	△26.7	△60.0	△40.0	△61.1
在庫 D・I	今期実績	0.0	△6.7	+6.7	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	△42.5	△20.0	△66.7	△30.0	△33.3	△55.6
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	△17.8	△13.3	△20.0	+10.0	△20.0	△33.3
	来期見通し	△27.5	△20.0	△40.0	+20.0	△60.0	△38.9
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	△10.2	0.0	△13.3	0.0	△20.0	△13.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	△4.4	0.0	0.0	△33.3	13.3	△13.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。